

農業単元における地図活用

燕市立分水小学校 吉田 孝則

1 はじめに

小学校学習指導要領解説社会科編、第5学年内容(2)ウには、「『食料生産に従事している人々の工夫や努力』を調べるとは、『稲作などを生産する農業の盛んな地域の具体的事例を取り上げ、これら地域の人々が、地形や気候などの自然環境や社会的条件を生かして生産を高める工夫や努力をしていることを具体的に調べることである。』」とある。

この単元においては、地図帳を有効に活用することで、上述される「地形や気候などの自然環境」、また、農作物の生産量等を具体的に理解することができる。

本稿は、米どころ新潟を取りあげ、地図帳を活用しながら授業を進めた実践例である。

2 家で食べているお米の産地は？

総合学習の時間、グラウンド脇の学校田で田植えをした5年生の子どもたち。毎日、休み時間になると学校田に出かけ、生長の様子を観察している。秋の収穫祭当日、5年生の育てたお米が、全校の給食となる。

おいしい米づくりに励んでいる子どもたちに、「みんなの家で食べているお米はおいしいの？」と聞いてみた。「とてもおいしい。」「いつもお母さんは、同じお米を選んでいる。」などと、すかさず反応する子どもたち。この発言をとらえ、「みんなの家では、どこの地域でつくられているお米を食べているの？」と問いかけた。

「この地域のコシヒカリ！」という声が出

かさず返る。しかし、答えられない子どもも多かった。そこで、各自家の人に聞いてみたり、『楽しく学ぶ小学生の地図帳 初訂版』（以下、地図帳）p.59にある写真のように、自分の家で食べるお米の袋を調べてみたりすることにした。



う
売られているお米

『楽しく学ぶ小学生の地図帳 初訂版』 p.59

3 お米のとれる地域は地形にも特徴があるよ

次の時間、みんなが調べてきたお米の産地を確かめた。互いが説明する地域を共通理解させるため、地図帳 p.16～19を拡大して提示した。



『楽しく学ぶ小学生の地図帳 初訂版』 p.16～19

「やはり新潟県内が多いね。」「分水や近くの地域のお米も多い。」「魚沼コシヒカリも人気がある。」「あきたこまちなど、東北地方のお米もある。」「お米の取れる地域は、みんな緑色の平野がある地域だよ。」などと、子どもたちの発言が続く。

そこで、地図帳を開き、名前が挙がった「新潟平野」や「秋田平野」「庄内平野」を調べてみた。地図帳p.9～10では、新潟県地図が見開きとなっている。海岸線の長い新潟県であるが、一目で全県の地形が読み取れる。

地形図を見た子どもたちから、「お米のとれる地域は、みんな大きな川が流れていて、平野になっている場所だ。」「魚沼地域は山地だけれど、魚野川が流れている周りが平野になっている。」「新潟平野は、信濃川の周りで

大きな平野が広がっているよ。」「わたしたちの地域には、信濃川から流れる大河津分水路があるけど、その周りにも平野が広がっている。」などと発言が続いた。「大河津分水路」とは、水害に苦しめられてきた信濃川周辺地域の人々の暮らしを守るため、明治から大正にかけてつくられた信濃川の分水路である。完成後、信濃川の水害は減るとともに、周辺地域の水稲生産量は安定することとなる。



『楽しく学ぶ小学生の地図帳 初訂版 p.9~10』

米のとれる地域と地形との関係を子どもたちが確実にとらえた様子を見取り、地図帳p.63「都道府県別の統計」を提示した。これらの地域において、米の生産量が多いことを理解させるためである。生産量の多い県の数値は、赤文字で示されている。新潟県を始めとして、秋田県・山形県等では米の生産量が多いことを子どもたちと確認した。

63 日本のがた 5 都道府県別の統計 赤字は1位。

都道府県	都道府県の所在地とその人口(万人)	面積		人口		農業生産(億円)		米(万t)	
		2008年度	2009年度	2008年度	2009年度	2006年度	2007年度	2006年度	2007年度
1 北海道	札幌	188.6	83,457	557	67	10,527	60.3		
2 青森	青森	30.4	9,607	143	149	2,885	29.9		
3 岩手	盛岡	29.9	15,279	137	89	2,544	31.0		
4 宮城	仙台	103.2	7,286	233	320	1,929	40.8		
5 秋田	秋田	32.7	11,612	113	97	1,861	55.0		
6 山形	山形	25.5	9,323	119	128	2,152	42.0		
7 福島	福島	29.5	13,783	208	151	2,500	44.5		
8 茨城	水戸	26.5	6,096	298	489	3,988	40.4		
9 栃木	宇都宮	51.0	6,408	201	313	2,609	36.1		
10 群馬	前橋	33.9	6,363	201	316	2,250	9.0		
11 埼玉	さいたま	120.2	3,797	707	1,861	1,900	17.5		
12 千葉	千葉	94.9	5,157	609	1,181	4,014	32.9		
13 東京	東京	874.3	2,188	1,246	5,697	278	0.1		
14 神奈川	横浜	365.4	2,416	850	3,642	736	1.6		
15 新潟	新潟	81.2	12,583	241	192	2,964	65.1		
16 富山	富山	42.1	4,248	111	260	726	21.2		

『楽しく学ぶ小学生の地図帳 初訂版』 p.63

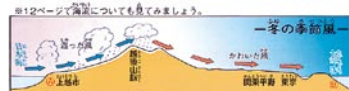
4 おいしく、安全なお米をつくっているんだ

この後、子どもたちと話し合い、多くの家で新潟県産のお米を食べていることから、新

潟県を中心とした米づくりのさかんな地域を取り上げ、学習を進めることとした。具体的な地域については、自分たちの地域周辺の新潟平野を調べたい子ども、魚沼地域を調べたい子どもがいたため、子どもの意識に応じて追究を複線化することにした。

また、自ら米を育てている子どもたちは、「おいしいお米を作る生産者のひみつを明らかにしたい。」というこだわりをもっていった。そこで、各自が、それぞれの地域の農業協同組合や営農センター、新潟県農業試験場に問い合わせたり、資料やホームページを活用したりして調べる場を設定した。

魚沼地域を調べた子どもたちは、生産者から話を聞く中で、2mを超える雪が降ること、また、豊富な雪解け水が、良質なコシヒカリづくりに役立っていることを知った。そのような子どもたちに、地図帳p.58「冬の季節風」を提示した。地形や季節風が地域の気候に影響を与えていることを理解させるためである。



『楽しく学ぶ小学生の地図帳 初訂版』 p.58

一方、地域周辺の新潟平野を調べた子どもたちは、生産者から話を聞く中で、水田の畦道に「ヒメイワダレソウ」という植物を植えていることを知った。除草剤としての役目を果たす植物である。おいしいお米をつくるだけでなく、安全なお米をつくろうと努力する人々の姿勢に感動する子どもたちであった。

5 おわりに

農業は、地域の地形・気候と密接な関連がある。稲作だけでなく、野菜・果物生産を扱う上でも、地図帳の有効活用は、確実な理解と学びへの意欲につながると考える。